

工学系研究科

I	教育の水準	教育 8-2
II	質の向上度	教育 8-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準を大きく上回る

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- バイリンガルキャンパス 10年基本構想を平成 22年度から推進しており、海外の優秀な学生を受け入れるために、ウェブサイトによる出願・審査管理システムとして T-cens の開発・運用や毎年新しい海外大学と学術交流協定を締結している。
- バイリンガルキャンパス 10年構想に基づき、平成 22年度から英語のみで学位が取れる英語特別コースを 3 コース設置しており、筆記試験のみによらない成績評価やインタビューを併用した学力評価に基づく学生の受け入れを行っている。当該コースの第 2 期中期目標期間（平成 22年度から平成 27年度）における事前登録者数は 98 名から 226 名へ、合格者数は 15 名から 33 名へ増加している。
- 専攻横断の工学教育改革と国際化を推進する国際工学教育推進機構内にあるバイリンガルキャンパス推進センターでは、英語による学術論文の書き方、発表と討論法を学ぶ「科学技術英語」や、学生・教職員の英語力向上を目指した「スペシャル・イングリッシュ・レッスン」、日本人学生と留学生の交流の場となる「International Friday Lounge」、英文による論文執筆を支援する ERIC（English wRItIng Consultant）等を設置するなど、国際性の高い人材育成に取り組んでいる。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 博士課程教育リーディングプログラムの 9 プログラムでは、学生が自ら計画を立て海外の研究室を訪問し、成果発表を行う海外武者修行のほか、専攻横断型講義、俯瞰的講義・演習、産学連携インターンシップ等の特徴的な取組を行っている。
- 博士課程教育リーディングプログラムのうち「活力ある超高齢社会を共創するグローバルリーダー養成プログラム（GLAFS）」、「統合物質科学リーダー養成プログラム（MERIT）」、「社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム（GSDM）」では、当該研究科が中心部局となって理学、医学、社会科学系の部局と連携した学際的な人材育成プログラムを提供し

ている。

(特筆すべき状況)

- バイリンガルキャンパス 10年構想に基づき、平成 22 年度から英語のみで学位が取れる英語特別コースを 3 コース設置しており、筆記試験のみによらない成績評価やインタビューを併用した学力評価に基づく学生の受け入れを行っている。当該コースの第 2 期中期目標期間における事前登録者数は 98 名から 226 名へ、合格者数は 15 名から 33 名へ増加している。
- 専攻横断の工学教育改革と国際化を推進する国際工学教育推進機構内にあるバイリンガルキャンパス推進センターでは、英語による学術論文の書き方、発表と討論法を学ぶ「科学技術英語」や、学生・教職員の英語力向上を目指した「スペシャル・イングリッシュ・レッスン」、日本人学生と留学生の交流の場となる「International Friday Lounge」、英文による論文執筆を支援する ERIC (English wRIting Consultant) 等を設置するなど、国際性の高い人材育成に取り組んでいる。
- 博士課程教育リーディングプログラムのうち「活力ある超高齢社会を共創するグローバルリーダー養成プログラム (GLAFS)」、「統合物質科学リーダー養成プログラム (MERIT)」、「社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム (GSDM)」では、当該研究科が中心部局となって理学、医学、社会科学系の部局と連携した学際的な人材育成プログラムを提供している。

以上の状況等及び工学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点 2-1 「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第 2 期中期目標期間における各種学会賞等の受賞人数は、平成 22 年度の 80 名から平成 27 年度の 290 名となっている。

観点 2-2 「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 修了生の就職先については、製造業を筆頭に、建設、情報通信、エネルギー、運輸、公務員等の幅広い分野に就職している。

以上の状況等及び工学系研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

II 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 高い質を維持している

〔判断理由〕

分析項目 I 「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 当該研究科では、平成 26 年度までに大学で 9 件採択されている博士課程教育リーディングプログラムに関わっており、18 専攻すべての学生が当該プログラムに参加できるように、教育研究体制を整備している。
- 学生が自ら計画を立て、海外の研究室を訪問し、成果発表を行う海外武者修行や、専攻横断型講義、俯瞰的講義・演習、産学連携インターンシップ等の多様な取組を行っている。
- マサチューセッツ工科大学（米国）等、世界の 17 大学と交流を推進している。また、Dean's Forum を通じ、パートナー大学へ平成 23 年度から平成 27 年度までの間に合計 5 回、83 名の学生を派遣している。

分析項目 II 「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 各種学会賞等の受賞人数は、平成 21 年度の 11 名から平成 27 年度の 290 名へ増加している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

2. 注目すべき質の向上

- 当該研究科では、平成 26 年度までに大学で 9 件採択されている博士課程教育リーディングプログラムに関わっており、18 専攻すべての学生が当該プログラムに参加できるように、教育研究体制を整備している。
- 学生が自ら計画を立て、海外の研究室を訪問し、成果発表を行う海外武者修行や、専攻横断型講義、俯瞰的講義・演習、産学連携インターンシップ等の多様な取組を行っている。